

第2章 基本目標・あるべき姿

経済的に困難な状況にある子どもが増加する傾向にあり、家庭の養育環境により子どもの将来が左右されてしまう場合が少なくありません。

第2章では、子どもの貧困対策を推進するための「基本目標」とその目標からみた「あるべき姿」を示しました。

＜基本目標＞

**生まれ育った環境にかかわらず
すべての子どもが夢と希望を持って成長する長野県を目指して**

長野県の未来を担う子どもたちが、自分の可能性を信じて前向きに挑戦することにより、未来を切り拓いていけるようにすることは、子ども自身にとっても社会にとっても必要です。しかしながら現実には、子どもたちの将来がその生まれ育った家庭の事情等に左右されてしまう場合が少なくありません。

いわゆる貧困の連鎖によって子どもたちの将来が閉ざされることは決してあってはならないことです。

子どもたちの将来をより一層輝かしいものとするためには、子どもたちの成育環境を整備するとともに、教育を受ける機会の均等を図り、保護者への生活の支援、就労支援などとあわせて、子どもの貧困対策を総合的に推進することが何より重要です。

行政や子どもの育ちに関わる者はもとより、県民全体で、子どもたちが夢と希望をもって成長し続けていける長野県の実現を目指しましょう。

＜基本目標からみた「あるべき姿」＞

子どもたちが夢と希望を持って成長するためには、心身ともに健やかに成長することができ、安心して過ごすことのできる環境が必要です。

また、夢と希望をかなえるために必要な「学ぶ力」をつけるために、学びたいことが学べることが重要です。

成長して自立するときに、選択肢が限定されることがないように、夢と希望に向かった自立ができるような取組が求められます。

あるべき姿1 すべての子どもが安心して過ごすことができる

子どもたちが夢と希望を持って自立していくには、健やかな成長のための安心して生活できる環境が重要です。しかしながら、経済的課題などを抱え親子共に心身が不安定な状況になると、家庭での養育に課題が生じる場合があります。

市町村等とともに家庭の養育、保護者の自立・就労を支援し、子どもたちが不安なく、安心して生活できる長野県を目指します。

あるべき姿2 すべての子どもが学びたいことを学ぶことができる

貧困の連鎖を断つためには、「学ぶ力」をつけることが重要です。経済的理由で学びたいことが学べない、といったことがないように、子どもたちの「学び」を応援します。

子どもたちが、それぞれの夢と希望を実現できるように、学びたいことが学べる長野県を目指します。

あるべき姿3 すべての子どもが多様な自立を実現できる

低所得世帯などでは、子どもに早期の自活が迫られがちである一方、家庭の事情や経済的理由により、就職に必要な資格取得や専門職に就くための学習や進学希望がかなわない子どもがいます。

経済的理由で、進路の選択肢が限られることがないように、希望する自立が選べる長野県を目指します。